

<症 例 報 告> 血小板減少で発症し摘脾後 CMMoLの病像を呈した高齢者女性例

大阪赤十字病院・内科

宮本勝一, 那須 芳, 有馬靖佳, 土井章一, 内野治人

Chronic myelomonocytic leukemia presenting with
isolated thrombocytopenia

Katsuichi Miyamoto, Kaori Nasu, Nobuyoshi Arima,

Shouichi Doi, Haruto Uchino

Department of Internal Medicine

Osaka Red Cross Hospital

Key words : 血小板減少 (thrombocytopenia)

CMMoL (chronic myelomonocytic leukemia)

MDS (myelodysplastic syndrome)

MPD (myeloproliferative disease)

はじめに

比較的急激な血小板単独の減少, 脾腫, 骨髄巨核球数の増加に加え, 抗核抗体陽性などの免疫異常を示し, 後に末梢血中に単球系異常細胞が増加し, FAB分類ではCMMoL (chronic myelomonocytic leukemia) に属すると考えられた高齢者の症例を経験した。骨髄では巨核球は幼若系を中心に増加していたが, 赤芽球系, 顆粒球系を含めて各成熟段階の細胞がほぼ均等に認められ, 核の偏在した胞体の広い異常細胞が1割弱認められた。骨髄異形成症候群 (以下MDS) か骨髄増殖症候群 (以下MPD) か鑑別の難しい症例であり, 一見ITP (特発性血小板減少性紫斑病) 様の所見であっても, 診断や治療には注意を要すると思われたので報告する。

症 例

患 者 : 70歳女性, 無職, 大阪府出身

主 訴 : 脾腫, 血小板減少

既往歴 : 32歳 虫垂炎, 42歳 胆石症

65歳 慢性膵炎, 不整脈

70歳 胃潰瘍, 腰椎圧迫骨折

家族歴 : 母親, 姉 脳梗塞

現病歴 : 平成5年3月自宅で腰椎圧迫骨折を来し近医にて, 塩酸チザニジン, イブリフラボン, ジクロフェナクナトリウムを投与されていた。この時腹部超音波で脾腫を指摘された。血液検査で血小板減少 (5万/ $\mu\ell$) を指摘され当院紹介, 同4月27日入院となる。

入院時現症 : 身長152cm, 体重45kg, 体温37.0°C, 脈拍64/分, 整, 血圧140/68mmHg。結膜に貧血, 黄疸なし, 表リンパ節は触知せず。肝は触知せず, 脾は2横指触知し圧痛あり。両下腿伸側に微小出血斑を認める。口腔内出血はなし。神経学的には異常なし。

入院時検査所見 : 一般検査では (表1), LDH 186IU/ ℓ と正常で, Vit. B12, 葉酸も共に正常。蛋白分画で γ グ